

ゆりかめめ yurikamome



巻頭言 新幹線敦賀開業まちづくり推進会議 会長 奥井 隆

北前船交易の日本遺産、鉄道の日本遺産、その両方に指定されている敦賀の新しいまちづくりには皆様方のお力が是非必要です。敦賀港や鉄道、北陸新幹線を核としたまちづくり。そして古くからの大陸との交易、歴代の都(みやこ)との交流で開かれた敦賀ならではのまちづくり。引き続き力強い御支援、心よりお願い申し上げます。

長年の悲願、首都東京への新幹線直結は、私たちの想像を超える、人流、物流の拡大に結び付き、一つ経済にとどまらず、文化においても多大な影響を及ぼします。北陸新幹線を迎える敦賀の新たな歴史として、後世に語り継がれていくと思えます。百年の大計は大きな変化をもたらします。観光ボランティアガイドとして日頃活躍をされている皆様には、心より感謝と敬意を表します。新しい敦賀へと変貌していく時代、わが街の素晴らしい歴史、伝統、文化をこれからのように伝えていくか、という大切な使命も同時に求められます。敦賀市のある越前、若狭は日本列島の中心部、日本海側と太平洋側の最短の結節地域です。その地理的な要件が古くから日本の歴史に度々登場する所以です。私達の先人が歩んでこられた軌跡を踏み外すことなく、新しい敦賀のまちづくりが急がれます。



二年半後に北陸新幹線が敦賀まで延伸されるこの時期、ほぼ高架橋の建設も終わり、駅舎やレール敷設工事へと移ろうとしている現況に、皆様ワクワクとされていると思います。同時に推進会議へのご協力に対し、心より御礼を申し上げます。



皆様こんにちは。令和元年十月より敦賀市立博物館館長を務めております岸松宏と申します。市民の皆様、ボランティアガイドの皆様には、日頃より当館の事業に、温かなご支援ご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。昨年から続くコロナ禍により、その影響は文化や観光事業全般にも広く深く及んでおります。皆様も予防対策に御苦労なさっているかと拝察いたします。こんな中でも、当館職員を講師にした研修会を開いたり、当館イベントにも積極的にご参加いただき、また、元氣にお客様を案内されている皆様の活動が、この危機的状況を打破する大きな契機になるものと確信しています。コロナ禍も収束しているであろう令和六年の春には、いよいよ当市に新幹線が来る予定です。皆様のご活躍の幅がさらに広がりますよう、敦賀の歴史の移りかわりを示唆する資料や、心を癒す美術品などの展示物を通じ、皆様のご意見やご期待にお応えしていけるよう、地元の博物館として尽力する所存ですので、今後共どうぞよろしくごお願い申し上げます。

皆さんこんにちは。令和元年十月より敦賀市立博物館館長を務

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

企画展示「俳句・俳諧資料と川上季石コレクション」

10月8日(金)～11月9日(火)・・・敦賀市立博物館所蔵の俳諧関係資料と故川上季石氏の俳句関係コレクションが展示・紹介されます。また、県文化財指定記念特別小展示「打它宗貞像～豪商のおもかげ～」も行われます。

企画展示「吉川コレクション」

11月10日(水)～12月7日(火)・・・「吉川コレクション」は蒐集家・吉川俊夫氏が長年集めてきた美術品で、郷土ゆかりの作家の作品はもちろん、日本の書画・工芸・文芸資料を広範囲に収集しています。今回、博物館へ寄贈されたコレクションが展示されます。

☆福井県立歴史博物館

特別展「景色の歴史をたどる—絵図・地図からみる越前若狭のまちとむら—」

10月23日(土)～11月28日(日)・・・色鮮やかに描かれた近世の絵図、近代以降の地図や絵図や地図を作成する際に使用された測量機器などが展示されます。うつりゆくまちやむらの景色を知り、現在目にする景色の魅力に気づききっかけになれば幸いです。

☆鉄道カフェ(於：敦賀市・松原公民館)

講演会「観光ボランティアガイドつるが」主催の「港と鉄道の街つるが」をテーマにした講演会です。

10月23日(土)、11月13日(土)、両日とも10時30分開講予定

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記アドレス(敦賀観光案内サイト漫遊敦賀)からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

FAX 0770-22-8197

<https://www.turuga.org>

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

編集後記

関ヶ原の戦の後、江戸幕府が出した「二国一城」方針によって敦賀城は壊されました。終戦後、国の「一県一行」の方針によって大和田銀行は統合されましたが本店本館、創業地の旧本店社屋は残りました。

みなとつるが山車会館の別館の旧大和田銀行本店社屋に入ると、和服姿の大和田莊七氏が奥からにこやかに出てくれるそうです。市立博物館になった旧大和田銀行本店本館では、洋服姿の莊七ご夫妻が迎え入れてくれる錯覚に陥ります。マスターリードバンクです。

毎月第三日曜「家庭の日」、博物館、山車会館は無料開放の日です。ご家族で博物館通りを散策し、敦賀の歴史に触れてみては如何でしょうか。歴史に詳しい学芸員の皆さんが様々な質問にも答えてくださいます。(将)

「日本遺産」 鉄道のキセキ ⑤

敦賀市、南越前町、長浜市にまたがる旧北陸線沿いの鉄道遺産の魅力を伝えるストーリー『海を越えた鉄道』世界へつながる鉄道のキセキ』が「日本遺産」に認定されています。今回は「旧大和田銀行本店本館（現・敦賀市立博物館）」を紹介いたします。

敦賀市立博物館の建物は、1927年（昭和2年）に竣工した大和田銀行の本店本館の建物を復元したものです。

大和田銀行は、敦賀の実業家二代目大和田荘七によって1892年（明治25年）に創業されました。二代目大和田荘七は、1857年（安政4年）、敦賀の薬種商山本家の次男として生まれ、海運業を営む初代大和田荘七に請われて養子となり、1887年に二代目荘七を襲名し、敦賀港を開港するための運動に取り組み、敦賀港の修築工事を政府に働きかけるなど敦賀経済の近代化を進めました。

敦賀は、1882年の鉄道の開設によって多くの物資が集まる場所となり商取引が盛んで、三井銀行、国立第二十五銀行などがありましたが、金利が高いなど庶民には敷居



旧大和田銀行本店本館
現・みなと山車会館別館



旧大和田銀行本店本館
現・敦賀市立博物館

が高く、大和田荘七が自ら大和銀行を創業しました。当時の銀行本店社屋は、一般的な和風の建物で、規模に合わせて増改築し、後に前面を洋風改装し現存しています。大和銀行は客への対応も丁寧で、既存の銀行よりも金利も安く、電話を採用して事務処理のスピード化を図るなどして顧客を増やしました。県内を始め大阪市、金沢市にも支店を展開し、順調に業績を伸ばし、新しい本店社屋を新築することになりました。新たな本店本館は、地上3階、地下1階、当時の北陸では珍しいエレベーターを設け、敦賀において大きき質とも別格で、銀行としてのセキュリティは珍しいエレベーターを設け、博物館として使用されています。1993年からは敦賀市立博物館として展示・展覧会を始め、様々なイベントが年間を通じて開催されています。敦賀の様々な、

敦賀の『みどころ』教育旅行

「観光ボランティアガイドつるが」の半年間の活動を振り返ってみますと、ガイドの依頼は少なくなり、コロナ感染の影響によって、直前にキャンセルとなるケースも増えています。その様な中でも、市内、県内の小中学校などからの教育、研修目的のガイドの依頼が例年以上にあることは大きな喜びです。

「鳥居ってどうして赤く塗ってあるんですか？」、「参道の真ん中を歩いちゃいけないのは何故ですか？」など子供たちの素朴な疑問は絶えません。真剣な眼差しで一斉に見つめられ、こちらの答えを待っています。「この人は誰でもいいですか？」といった問いかけにも、大きな声で「松尾芭蕉さん」と返ってくることもあり、説明した内容をバインダーに挟んだ用紙に熱心にメモします。研修目的で氣比神宮を訪れた子供たちへのガイド風景です。

は真剣にガイドの説明を聞いてくれています。旅行が身近なところで可哀そうとの声もあるようですが、本人たちにとっては、案内、身近なところで新たな発見を楽しんでいる様に見えるのは、私もガイドの勝手な思い込みでしょうか？

身近な敦賀市の魅力を紹介したことで、子供たちが新しい発見をして、敦賀の魅力を感じて、ふるさとを誇りに思っていて、好きになってくれる。小さいときに地元の人に登ったり、地域の歴史を学ぶと、都会に出てもまた故郷に帰りたい、

芭蕉像の前で

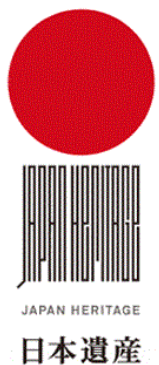


芭蕉像の前で



芭蕉像の前で

たくさん聞きます。市内の高校生が、人道の港敦賀ムゼウムで観光客へのガイドとしてデビューし、練習と実践を重ねています。観光客の皆さんも地元の若者が、地域のことを誇りに思っていて心通わせてくれると思います。「ガイドつるが」のメンバーも、生徒さんたちの将来を思い浮かべながら「おもてなしの心」で研修旅行のご案内をしています。



歴史が学べます。また、旧大和田銀行本店社屋は、みなとつるが山車会館の別館となっており、見学できます。（森 将臣）

第22回「鉄道カフェ」

9月18日、松原公民館にて、「港と鉄道の街つるが」を広く市民の皆様を知っていたくことを目的として鉄道カフェを開催しました。今回は、「小浜線物語」小浜線の今昔」と題し、小浜線鉄道遺産を守る会代表の榊郷三好氏を講師にお迎えし、45名の参加者が熱心に聴講しました。



講演では、小浜線の建設の歴史や当時の工事の概要などの紹介がありました。また、開通後、小浜線を活用した名古屋から米子までの急行や金沢から米子までの急行の運行などの紹介、更には大阪・京都や名古屋から小浜を目指した海水浴列車の運行なども紹介され、昭和36年から57年頃が小浜線の活気ある時期だったとのお話でした。その後、蒸気機関車からディーゼルに変わり、更に電化という変遷の紹介もありました。昨今は利用者が減っているが、きちんと保存していくためにも地域の人々が利用し、誇りを持つことが重要と、地域の子ども達を巻き込んだ写真大会、電車を乗り継いだ小旅行などを体験してもらおうなどの保存活動の取組みの紹介もあり、とても参考になる有意義な鉄道カフェでした。聴講者の方々には、当時の小浜線に馴染みのある方も多く、会場に展示したパネルの前に懐かしむ様に熱心にご覧になっていました。鉄道カフェは、年内に2回、10月23日と11月13日に開催を予定しています。皆さんのご参加をお待ちしています。（森 将臣）

ガイドの活動と楽しい出来事

ガイドつるがの会員は、観光客の皆さんへのご案内等を行いながら、楽しい出来事も沢山経験しています。今回は、和多田淑子会員のエピソードをご紹介します。

「こんにちは 今日、よろしくお願ひします。」

こんな挨拶から始まる子ども達へのガイドですが、もう何年続けているのかなあと振り返ることもあります。

氣比神宮、松尾芭蕉の敦賀での出来事、敦賀の街の色んな事など、小学校低学年にはなるべく分かりやすく、楽しくより正確にと考えながら話すように心がけています。そんな中で自分自身も色々勉強させられていることに気がつきます。子ども達からの質問にも気が抜けません、いつでもどこから、何が飛んでくるのか分かりませんが、やり取りはとても楽しいです。「氣比神宮って、そんな昔からあるんやあ」、「松尾芭蕉さんは2400キロも歩いて旅をして敦賀まで来たんや、すごいなあ」などとニコニコしながら話しかけている子供たちは、本当に素朴で可愛いですね。そんな子供たちがもつと敦賀を好きになり、誇りを持つてもらえると嬉しいなあと思



いながらガイドを終えます。最近のガイドで一番嬉しかった事は、氣比神宮を案内した時のことです。小学校3年生の男の子が芭蕉の句碑の前で「和多田さんは、どの句が好きですか？」と質問されて、一番好きな句を答えました。みんな色んなことを口々に話しているなかでガイドも無事に終えました。何日か後、その学校から、子ども達の感想とお礼文が届きました。その中に和多田さんへと書かれたお礼文があり、私の好きな句が書かれていました。「名月や 北国日和 定めなき」と。（和多田 淑子）